

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会  
第 12 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2009 年 10 月 15 日 (火) 13:30~17:00
2. 場 所 原子力安全基盤機構 本館 4 階 4 A 会議室
3. 出席者 (敬称略)  
(出席委員) 鈴木 (主査), 文能 (幹事), 新井, 楠, 矢野, 下家, 田中 (正), 田村,  
菅野 (皆川代理), 萬年, 西山, 利沢, 松浦, 今村 (坂下代理), 三山  
(15 名)  
(欠席委員) 大木, 大崎, 橘高, 佐野, 米山, 渡邊 (6 名)  
(常時参加者) 中川  
(傍聴者) 酒匂, 水嶋  
(事務局) 岡村
4. 配付資料  
P14SC-12-1 第 11 回 PLM 分科会議事録  
P14SC-12-2 人事について (案)  
P14SC-12-3-1 原子力安全・保安院技術評価結果の対応 (案)  
P14SC-12-3-2 PLM 基準 2008 年版 引用・参考文献の更新確認結果一覧表  
(案)  
P14SC-12-4-1 経年劣化メカニズムまとめ表の改定 (案)  
P14SC-12-4-2 経年劣化メカニズムまとめ表の情報更新確認内容  
P14SC-12-4-3-B 経年劣化メカニズムまとめ表詳細版ドラフトのコメント対応  
(BWR 高経年化技術評価報告書との比較) (案)  
P14SC-12-4-3-P 経年劣化メカニズムまとめ表詳細版ドラフトのコメント対応  
(PWR 高経年化技術評価報告書との比較) (案)  
P14SC-12-4-4-P 経年劣化メカニズムまとめ表詳細版ドラフトのコメント対応  
(PWR 気付き事項) (案)  
P14SC-12-4-5-P PWR の経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版の 2008 年版正  
誤表案及び 2010 年追補版での変更点一覧表案の確認結果 (案)  
P14SC-12-4-6-B BWR の経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版: 2008 年版正  
誤表案  
P14SC-12-4-6-B PWR の経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版: 2008 年版正  
誤表案  
P14SC-12-4-7-B BWR の経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版: 2010 年追補  
版での変更点一覧表案

- P14SC-12-4-7-P PWR の経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版：2010 年追補版での変更点一覧表案
- P14SC-12-4-8-B BWR の経年劣化メカニズムまとめ表詳細版：2010 年追補案
- P14SC-12-4-8-P PWR の経年劣化メカニズムまとめ表詳細版：2010 年追補案
- P14SC-12-4-9-B BWR の経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版：2010 年追補案
- P14SC-12-4-9-P PWR の経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版：2010 年追補案
- P14SC-12-4-10 PLM 基準：2010 年追補案
- P14SC-12-5 システム安全専門部会への本報告（案）
- P14SC-12-6 PLM 分科会活動スケジュール（案）
- P14SC-12-7 劣化メカニズム整理表への新知見反映時のまとめ表改定スキーム（素案）
- P14SC-12-参考 1 原子力安全・保安院技術評価（案）等に対する公衆審査資料
- P14SC-12-参考 2 第 6 回システム安全専門部会議事録（案）

## 5. 議事

会議に先立ち、事務局より出席委員は代理を含めて 15 名であり定足数を満足している旨報告があった。

### (1) 前回議事録確認

文能幹事より、第 11 回 PLM 分科会議事録（案）（P14SC-12-1）が紹介され、下記コメントを反映することで承認された。

（コメント）P.3 で安全管理審査表という単語は、標準審査管理表に修正すること。

### (2) 人事（P14SC-12-2）

#### ①委員の退任

事務局より、坂下委員の退任が報告された。

#### ②新委員の選任

事務局より、新委員として日立 GE ニュークリア・エナジー（株）の今村光孝氏が推薦されている旨説明し、審議の結果新委員として選任された。

#### ③常時参加者の登録

事務局より、東北電力（株）の秋葉真司氏より常時参加登録の希望が出ている旨説明し、審議の結果承認された。

### (3) 原子力安全・保安院技術評価結果等

文能幹事より、P14SC-12-3-1, 2 に基づいて、原子力安全・保安院技術評価結果への対応方針について説明がされた。主なコメント等は以下のとおり。

- ・2.13 長期保全計画は、現状の保守管理に追加すべき保全策との文言があるが、注記の保守管理と同じ用語となっており、追加すべき保全策は、追加すべき保全項目とするなど、もう少し絞りこむべきではないか。  
→要望事項は、新しくできた長期保守管理方針との区別を明確化すべきとの趣旨であり、明確になれば良い。2.13 は定義でありあまり変えない方が良い。

#### (4) 経年劣化メカニズムまとめ表の改定

P14SC-11-4-1～9 に基づいて、文能幹事より、経年劣化メカニズムまとめ表の改定作業、作業中に確認された誤記、及び改定（案）について説明が行われた。主なコメント等は以下のとおり。

- ・改定のプロセスを分かりやすく見せることが重要である。
- ・改定内容を分類すると、プラント設計の相違によるものと報告書記載方法の相違によるものだけとなるのか。

→記載方法の相違の中に、運転経験の反映、具体的には保全実績によるものとトラブル事例によるものが含まれている。

→運転経験の反映は記載方法の相違ではないのではないかと。

→運転経験ではあるが、既に技術評価済みのものであり、分科会で議論する必要はない。分類は分ける方向で検討する。

- ・P14SC-12-4-2 は、何を使ってチェックしたのか分かるようにするべき。
- ・P14SC-12-4-2 の全体の最終確認で、最新知見・運転経験をチェックするとなっているが、これはプラント側の高経年化技術評価で行うべき事。この場で議論すべきことではない。

→それで良いと思う。これをベースに、最新知見を各プラントでしっかり取り込むことが重要。

→学会であるので、何が最新知見なのか確認をしても良いのではないかと。

→今回は追補による改定であり、5 プラントの実績反映だけで良い。最新知見は、本格改定になるのではないかと。

→表現を見直す。

- ・P14SC-12-4-10 の 2.13 注記で、保安規定と書かれているが、〇〇に基づく保安規定など正確に記載する必要がある。

→記載例等を調べて修正する。

- ・P14SC-12-4-10 の附属書 A で、浜岡原子力発電機は発電所の誤記。

→追記する。

→同じ附属書 A で、まとめ表の置き換えの記載が無い。

→追記する。

- ・正誤表に、附属書 A 以外の誤記は入れるのか。

→入れるべき。

#### (5) システム安全専門部会等への状況報告（案）

P14SC-12-5 に基づいて、文能幹事よりシステム安全専門部会への本報告について説明が行われた。

審議の結果、本報告については承認されたが、説明資料は見直すこととなった。

- ・説明資料は、P14SC-12-4-1 を元に、A3 で 1 枚程度に簡略化したものが良い。
- ・策定作業のプロセスが良く分かる資料とすること。

#### (6) システム安全専門部会の状況

P14SC-12-参考 2 に基づいて、文能幹事より 9 月 9 日のシステム安全専門部会の状況について説明が行われた。また、菅野委員より、9 月末に IAEA で PLM 基準の一部を紹介した際の状況について説明が行われた。

主なコメント等は以下のとおり。

- ・英語化をどのように進めるのか考えはあるのか。  
→まだ何も決まっていない。学会として出すことが重要。進め方が決まれば協力する。

#### (7) PLM分科会活動スケジュール（案）

P14SC-12-6に基づいて、PLM分科会活動スケジュール（案）が文能幹事より紹介され、了承された。

主なコメント等は以下のとおり。

- ・来年は、耐震に関するまとめ表策定の可能性がある。  
→機械学会の減肉に関する規格との関係でも、検討が必要との話を聞いている。

#### (7) 劣化メカニズム整理表との連携について

P14SC-12-7に基づいて、劣化メカニズム整理表への新知見反映時のまとめ表改定スキーム（素案）が西山委員より紹介された。

主なコメントは以下のとおり。

- ・高経年化技術評価書以外で反映すべきものはどの程度出ているのか。  
→多くても年 1 件程度と考えられる。
- ・分科会にはどの程度の資料が出てくるのか。エビデンス等、議論できるものになるのか。  
→そう考えている。

- ・将来的に高経年化技術評価書の内容が絞られてくると、直接こちらのルートでデータがインプットされる。その際は、技術評価書の審査を経ていないものであるため、分科会で技術的な検討が必要となる。  
→分科会でどのように審議するか検討したい。

#### 6. 今後のスケジュール等

次回分科会は、書面投票結果で意見が無ければ見送る可能性もあるが、11月26日（水）13:30～に仮決めした。

以 上